

シラバス参照

科目名	人口論Ⅱ
配当年次	3年次
開講期間	後期
単位数	2
担当教員	西川 由比子(ニシカワ ユイコ)
期間・曜日・時限・教室	後期 火曜日 2時限 2-102

※	
授業の目的・目標	人口の動向には社会・経済要因が作用すると同時に、人口現象が実生活に与える影響は多様である。開発途上国においては人口の急増が社会発展を阻害している。一方、先進諸国では少子高齢化による労働市場、社会保障への影響が懸念されており、人口問題は地域における発展段階により多様である。本講義ではこのような人口現象から派生する問題、およびその対策としての人口政策について学ぶ。
準備学習等の指示	次回授業内容に関してはweb-classにレジュメを提示する。授業前にプリントし、授業で展開される内容を読んで授業に臨むこと(事前学習)。授業の内容に関する確認および課題提示によるリアクションペーパーを提出すること(事後学習)。1回の授業につき3時間の準備・ふりかえり学習を実施してください。
講義スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 人口転換と発展のデレンマ(1):人口成長と経済成長(人口と経済成長の関連について理解できる) 2 人口転換と発展のデレンマ(2):マルサスのデレンマ(人口と経済の関係に関してマルサスの理論を応用し開発途上地域の状況を理解できる) 3 人口転換と発展のデレンマ(3):社会構造の変化と人口転換(人口転換に及ぼす影響について理解できる) 4 人口転換と発展のデレンマ(4):出生力低下の可能性(開発途上地域における発展の可能性を出生力変動から理解する) 5 人口転換と発展のデレンマ(5):開発途上国における事例(インド)(4の理論に関してケーススタディとしての実証を行う) 6 人口構造の変化(1):年齢構成の変化と地域格差(年齢構成と高齢化の関係について理解できる) 7 人口構造の変化(2):少子高齢化の進行(国際比較)(日本における少子高齢化の現状を国際比較から理解できる) 8 人口構造の変化(3):少子高齢化の進行と社会・経済問題(少子高齢化が社会経済に与える影響を理解できる) 9 人口構造の変化(4):人口移動と都市化(人口の空間的変化として地域の人口集中度の相違について理解できる) 10 人口構造の変化(5):首都圏における人口集中とその問題点(埼玉県を含めた首都圏における人口変動について理解する) 11 人口構造の変化(6):国際人口移動(人口移動から国際労働移動の現状について理解できる) 12 人口収容力と地球環境(資源の偏在と環境問題について理解できる) 13 人口政策(1):人口過程と人口政策(人口問題の解決策として人口政策理論を理解できる) 14 人口政策(2):人口政策の効果(人口政策の実効性について理解できる) 15 人口政策(3):国際社会と人口政策の動向(国際社会の人口政策の動向および開発途上地域における実情を理解できる)
教科書	毎回プリントで対応するので特に定めませんが、河野稠果『世界の人口』(第2版)東京大学出版会の活用を教科書に準じるものとして勧める。
参考文献	河野稠果『世界の人口』(第2版)東京大学出版会 その他の参考文献については授業内容に応じて紹介。
授業の方法	講義形式
成績評価方法	前期、後期の定期試験90%、リアクションペーパー提出状況(10%)
オフィスアワー	水曜日4時限目を予定。事前に連絡の上、用件を伝え、研究室を訪問することが望ましい。
居室	12号館1階研究室103号室
ホームページ	
その他特記事項	人口論Ⅰとあわせて受講することが望ましい。 理解度確認のための小テストを数回行う。小テストは理解度チェックのためのもので、正解提示と解説をする。
添付ファイル	